

社会福祉法人 京都視覚障害者支援センター
平成25年度 事業報告

目 次

I 法人概況.....	1
II 平成25年度事業計画の重点に対する達成評価.....	4
III 各部門別報告.....	6
A. 障害者支援施設「洛西寮」.....	6
【支援計画】.....	6
【各事業】.....	6
ア.生活介護「ちくりん」.....	6
イ.就労継続支援B型「らくさい作業所」.....	7
ウ.施設入所支援（夜間支援）.....	8
【各サービス内容】.....	9
ア.健康管理.....	9
イ.食事の提供.....	10
ウ.歩行訓練.....	11
エ.余暇活動支援.....	11
オ.買い物支援サービス.....	12
カ.ボランティア支援サービス.....	12
B. 三療事業部.....	13
ア.盲人ホーム美鈴.....	13
イ.就労継続支援A型「らくさい治療院」.....	14
C. 法人.....	16
ア.事務局.....	16
イ.点字出版施設「紫野点字社」.....	18
ウ.京都府中途失明者巡回生活指導員派遣事業.....	19
エ.特定相談支援事業「障害者相談支援事業所 スマイルサポート」.....	21
オ.主催行事.....	22
カ.共催事業.....	24
IV 各法人事業部門の報告資料編.....	26
<参考資料>.....	29

I 法人概況

1. はじめに

本年度は、「事業推進3ヵ年プラン」の目標であった「いつまでも働き続けられる事業所」の理念を拡大するための1年であった。4月より新設した就労継続支援A型「らくさい治療院」と、洛西寮内に併設した就労継続支援B型「らくさい作業所」の事業開始と共に、生活介護「ちくりん」、施設入所支援「洛西寮」の円滑な運営を目標にして事業が展開された。改築後6年目を迎えた盲人ホーム「美鈴」はベテランスタッフの入れ替わりなどの交代要員を跳ねのけ、昨年度実績を上回ることができた。

社会福祉制度を取り巻く国の動きは、国内法の整備を終えて、本年2月には「障害者権利条約」への批准が実現し、利用者サービスや支援の基本理念でもある「人権意識」の最優先の考え方をはじめ、障害の医療モデルから社会モデルへの移行、インクルーシブな社会作りが強調された。障害者の福祉サービスを左右する障害程度区分は本年度から障害支援区分に変更され、自立と共生に向けた「障害者総合支援法」が本格的に動き出した。

本法人では、昨年度末に法人名称を変更し、名実共に新たな前進の峰を目指した。しかし、年度末を迎えた今、利用者が快適に安全・安心した生活環境で暮らすことができる体制整備や地域で共に暮らすことのできる「グループホーム」の新設など、残された課題も多い。また、年間を通じて、法人理事会を中心に、財政健全化、安全・安心対策、後継者対策、中・長期計画の作成体制の主要4課題について検討に着手した。

2. 事業概況（各部門の特徴）

法人全体から見ると、今年度は新事業所の創設の年であり、人員配置、予算見通し、売上額など、手探りの状態からの出発であった。

① 障害者支援施設「洛西寮」

洛西寮は、入所定員30名を長期にわたって維持していたが、本年1月以降相次ぐ退所者を出した。高齢化による老人施設等への移行をはじめ、重度化する視覚障害者の施設選択のニーズの違いによって、全利用定員の85%まで落ち込んだ。こうした傾向は、現利用者の40%を占める盲重複障害者に対する適切な支援ができていない現状に対し、比率を増してくる中途視覚障害者で三療資格過程から除外された利用者への新たな支援プログラムの必要性が求められている。このことは、一方で盲重複障害者に対する専門的な支援のスキルアップを図らなければならない課題と共に、中途視覚障害者に対する職業訓練の要素を含めた就労支援プログラムの構築が不可欠となっていることを示唆している。

24時間対応の洛西寮は、日中活動と夜間の支援を含めて入所者の命と暮らしを守る基本的な使命を帯びている。しかし、現行制度では夜間及び土日祝日の日勤体制を含めて非常勤職員1名しか配置できておらず、全入所者の危機管理と生活の質を向上させる上から、極めて劣悪な状況と言わざるを得ない。早急にこの1名体制を複数化していくところからの改善を目指さなければならない。

②生活介護「ちくりん」

これまでの授産作業を受け継ぎ、生産活動型として作業と生活のバランスに配慮しながら支援に努めた。1週間の就労時間をらくさい作業所対比80%とし、午後の時間の余暇を活用して生活支援、レクリエーション、買い物など、日常的なニーズに応えられるプログラムを展開した。

しかし、居室の清掃、日常生活動作のチェック、相談やグループ支援など、作業時間の短縮に見合う成果を生み出すことができなかった。今後の課題としては、生産活動の適正な比率を定め、生活支援や快適に暮らすことのできるプログラムの構築に力を入れることをもって利用者目線で再検討しなければならない。

② 労継続支援 B 型「らくさい作業所」

就労継続支援 B 型への移行をきっかけに、働く意欲や意識への新たな働きがけが功を奏し、「利用者全員が全ての作業科目に挑戦できること」を目標に働く作業所へと変化を遂げた。そのため、作業所間でのプログラムの相違や昼食時間の変更など、一部の戸惑いはあったものの、全般的には二分した効果は実証することができた。しかし、「点字毎日」からの受託が無くなったのをはじめ、点字印刷部数の微減など、今後の点字作業を巡る見通しには不透明感が忍び寄っている。工賃向上計画に基づいたプラン作りにおいては、今年度の生産活動を指標にして、計画策定を行い、より魅力のある事業所として、高工賃の支払える事業所を目指す上から、自主製品の開発、点字技術をはじめ支援スキルの向上、働く職場環境の改善などを目標にして前進したい。

④点字出版施設「紫野点字社」

今年度も引き続き京都市からの広報誌の印刷受注をはじめ、関係機関からの製版、印刷、発送などを請け負い、入力部分を紫野点字社、印刷をらくさい作業所で分担している。例年通りの規模での受注に比べると共に、3年前から取り組んだ選挙情報プロジェクトにも参加した。しかし、点字技能に対する未熟さから校正ミスを指摘され、公正・公平であるべき選挙情報の担い手としての社会的責任を問われることとなった。この反省を踏まえて、直後に実施した「選挙情報プロジェクト担当者による点字基礎講座」を企画した。視覚障害者の作業所として、点字普及の担い手となるべき施設のグレードアップのためにも、厳しい試練の時期を乗り越えなければならない。

⑤京都府中途失明者巡回生活指導員派遣事業（以下「府巡回」と略記）

府巡回は、府内南部、乙訓、中部、北部と広域であるにも関わらず、2名体制で派遣し、持てる力を最大限に発揮して奮闘した。その結果、昨年度実績の約40%増（中・南部＝約60%増、北部＝約22%増）であった。中でも、京都府視覚障害者協会、京都ライトハウスと共に取り組んだ「南部地域拠点（サテライト）」の取り組みが2年目を迎え、前年度実績の1.3倍に達し、府巡回利用者の増大にも大きく貢献した。また、府内視覚障害相談会も年6回地域を巡回して開催した。（相談件数62件、昨年度実績42件）特筆すべきは、平成26年7月に京都が主管する「第23回視覚障害リハビリテーション研究発表大会」の実行委員を派遣し、全国の大会企画へ積極的に本法人が参加できたことである。

⑥就労継続支援 A 型「らくさい治療院」

4月より洛西寮から徒歩5分の新天地で開業した。定員10名の確保、雇用契約に基づいた最低賃金制の遵守、社会保険への加入など、福祉的就労のB型とは特段の差があるものの、そこで働く視覚障害者にとっては、有資格者としての技術を活かして経済活動に参加できる喜びを味わう絶好の場となった。当初心配されていた患者数の確保は、利用者の技術力、対話力、おもてなしの総合力を基本として平均的な患者数を維持することができた。また、タイムリーに新聞折り込み広告などを行っただけでなく、地域のイベントに「健康教室」として積極的に取り組み、患者から患者への口コミも交えて安心して働き続けられる事業所の理念を全うすることができた。それにより、洛西ニュータウンで成長したこのらくさい治療院の初年度は、経営面、事業運営面、サービス面のあらゆる角度から見ても予想以上の大きな成果を収めた1年となった。

⑦盲人ホーム「美鈴」

改築後6年目を迎え、力量のある施術者を排出した以降も、引き続きハイレベルな患者数を維持することができた。受付の円滑化や金銭管理の煩雑さを改善するために設けた「金銭支払機」の効果も大きく、安全・安心な治療環境が整った。施術者の交通事故による療養期間の長期化など、施術側のマイナスがあったが、年度末にはその痛手を回復するだけでなく、前年度実績を上回る成果を収めた。

⑧法人事務局

手薄な事務局体制にも関わらず、昨年度末からの多忙な時期を乗り越えてきた。法人名称変更に関連した実務や登記手続き、今年度に入ってから定款変更や諸規程の改正実務、制度変更に伴う多様な雑務に追われた1年であった。特に、後半期には、財政健全化の具体的な作業に着手し、職員給与表の見直しに伴う資料作成、理事会、評議員会資料の準備などから、大変多忙を極めた。しかし、それを支援する庶務体制の脆弱さから、今後の人事配置など課題を抱えることとなった。また、そうした庶務の軽減と共通な仕事の仕方を共有するために、年に1回ではあったものの、法人内の2ヶ所の庶務担当者の研修会が企画できたことは前進であった。

これらに加えて、今年度末の3月からは、京都市の委託による「特定相談支援事業所 スマイルサポート」が開設された。個別支援計画とは別に新たにサービス等利用計画（計画相談）」を受託した。当面、法人内の事業所利用者に対する計画相談を担うもので、これをきっかけに地域における施設の役割機能を増大するために、「相談支援事業部」を平成26年度から開設することとした。

最後に、平成25年度は、国内的には、わが国が「障害者権利条約」への批准という記憶に残る1年であった。「障害者差別解消法」の成立に代表されるように、関係法が整備された。京都府においては、「京都府障がいのある人もない人も共に安心していきいきと暮らしやすい社会づくり条例」が制定され、障害者に対する人権意識の向上と共に、不利益取り扱いや合理的配慮に関する考え方が広がろうとしている。

本法人においても、新たな「新中・長期プラン」の策定に向け、現場からの意見交換から取り組みを広げなければならない。そのためにも、年度末に実現した「役職員研修会」は、今後の法人、事業所の進むべき方向を切り開く上で、大きな第一歩としなければならない。

以下、本年度の報告にあたっては、

Ⅱ 平成25年度事業計画の重点に対する達成評価

Ⅲ 各部門別報告

Ⅳ 各法人事業部門の報告資料編

としてまとめることとした。そのため、例年煩雑になりがちだった理事会、評議員会資料は、基本的にⅠ～Ⅲを中心に検討材料として活用し、Ⅳについては、報告概要を補強する詳細な資料編として位置付け、事業分析や保存用資料として活用できるよう創意工夫した。

II 平成25年度事業計画の重点に対する達成評価

前年度の評価方法に引き続き、今年度も各項目ごとに10点満点、3区分として数値化した。

A=9点以上

B=6～8点

C=5点以下

として評価の目安とした。

① 「事業推進3ヵ年プラン」の推進 → B=7点

- ・地域で共に暮らすためのグループホーム（共同援助）づくりの具体化

<説明>

働き続けられる事業所の拡大には踏み出せたものの、グループホームへの取り組みは京都市の担当課と協議をするだけに留まった。地域ニーズの把握、法人、職員間の検討などが課題。

② 法人の将来検討に向けた取り組み → C=5点

- ・後継者対策・人材育成
- ・経営診断指標に基づく財政課題の客観化と課題解決に向けた取り組み

<説明>

役職員合同研修会を取り組めた意義は大きい。やっと議論を始める端緒となった。引き続き、新中・長期計画作成が課題。

③ 事業の活性化と情報発信 → B=8点

- ・施設利用者等外部評価システムの活用
- ・「視覚障害者支援ボランティア養成講習会」の継続開催（3年連続企画）
- ・三療のニーズの発掘に向けた宣伝活動及び、地域イベントへの積極的参加

<説明>

昨年度同様情報発信、ボランティア養成、広報活動には力を入れた。しかし、日常的に施設の存在やイベント情報を地域に発信する方法の創意工夫や職員の意識改革及び、外部評価に向けた準備が課題。

④ 利用者サービスの拡充 → B=6点

- ・利用者個々のニーズに対する個別支援計画の具体化
- ・職業能力の向上に向けた支援体制整備
- ・工賃向上計画の推進
- ・成年後見制度の導入に向けた取り組み

<説明>

利用者サービスの向上なくして本法人事業所の存在価値はありえない。どの項目よりも厳しく評価し、より高い目標を達成するための支援計画、相談スキル、生活・就労支援の向上が課題。

⑤ 資質向上に向けた職員研修の拡充 → C=5点

- ・各種対外研修会への職員派遣
- ・個別目標達成のためのスキルアップ向上計画の推進
- ・研修報告の義務化

<説明>

個別目標達成のためのスキルアップ向上に向けた取り組みができなかった。出張派遣後の研修報告が不十分。個別の研修課題の明確化と研修報告の改善が課題。

⑥ 安全衛生対策の拡充 → C=5点

- ・「利用者緊急用カルテ」の有効活用と日常的な整備確認の業務化
- ・理解しやすい食事指導・支援計画の実践
- ・安全防災に関する年間計画の策定
- ・安心・安全な生活環境づくりの推進

<説明>

今年度から取り組んだ栄養ケアマネジメントは、整理すべき課題も多いが、利用者への働きかけの成果が見受けられるようになり、今後へのしっかりした対応が求められる。緊急用カルテ整備が新たな看護体制に円滑に引き継がれることが課題。安全防災対策も日々の場面や時間帯の想定による計画的な実施が課題。

⑦ 対外的な諸団体との交流・連携促進 → B=8点

- ・京都府内視覚障害相談会（年6回開催、京都府家庭支援総合センター、京都ライトハウスと共催）への積極的参加
- ・「京都府南部サテライト事業」拡充への積極的参加と貢献
- ・京都における視覚障害者施設・団体等共済事業（白杖安全デー、あい・らぶ・ふえあ、視覚障害者京都マラソン大会）への積極的参加
- ・地域団体等（西京区社会福祉協議会、新林学区社会福祉協議会並びに地域老人会等及び、京都市西部障害者自立支援協議会、京都府視覚障害者協会、西京視覚障害者協会など）との連携

<説明>

ここ数年間で最も改善した部分がこの項目である。それぞれの役割を担った職員が共催事業、相談支援、三療事業推進、ボランティア養成などを通じて、他の関係機関と密接な連携を重ね、強めてきたことによる成果は大きい。本法人が引き続き事業の推進役としてその存在を大きくしていくことが課題。

⑧ 財政運営の健全化、効率化に向けた取り組み → C=5点

- ・財政課題集中討議の日常的な管理と継続的な取り組みの拡充（法人運営会議）
- ・職員人件費の適正化についての見直しと退職職員の再雇用制度の拡充（理事会での継続審議）

- ・支出節減対策の追求と財政運営の効率化
- ・エコ、節電対策

<説明>

職員人件費の削減などに着手できたものの、財政健全化に向けた残された課題は多い。厨房業務の検討をはじめ、日常的に可能な職員個々が参加できるエコ対策など、足元からの節減意識改革が課題。

⑨ 後援会活動の活性化 → C=5点

- ・年間企画の具体化（企画担当制の導入）
- ・施設と地域を結ぶイベント企画の実現

<説明>

なかなか軌道に乗らない中で、役員会の定例化、企画会議の開催、後援会自主事業の企画等が動き出した。具体的な成果を生み出すことが課題。

特点表

トータル	A=0項目	0点
	B=4項目	29点
	C=5項目	25点
	(9項目	54点)
評化率	60.0% (54/90)	

年次比較

平成22年	43.6%
平成23年	59.0%
平成24年	60.0%
平成25年	60.0%

Ⅲ 各部門別報告

A. 障害者支援施設「洛西寮」

【支援計画】

概要

利用者の課題やニーズをアセスメントによって把握し、支援計画を作成した。順次モニタリングを実施し、目標達成への振り返りを行った。

今年度から、ちくりん、らくさい作業所の各事業所別に支援計画会議を行った。事業所別に行うことで、深く利用者について話し合い、より具体的な支援の方向性や共通認識を確認をすることが出来た。

今後は、栄養マネジメントを含め、会議や様式の効率化を図り、より良い支援へつなげられるようにしていく。

【各事業】

ア. 生活介護「ちくりん」

概要

日中活動支援の内容（生産、生活、健康、相談、外出、食事、余暇等）を拡充し、安全でより豊かな生活、質の向上を目指した。個別支援計画を作成しプログラムに基づき日常生活向上の支援・個別支援等を行った。

成果

- ① 箱の生産数が日中活動プログラムの変更で、当初、前年度の40%まで落ち込んだが、技術向上・生産力等で、10%弱のマイナス程度で留めることができた
- ② 作業重視だったものから、生活支援の比率が高まった
- ③ 65歳以上の利用者の進路について、本人・家族との相談支援や情報提供を行い、申請手続き・老人ホーム移行を支援した

課題

- ① 生産活動における生産数の目標の位置づけについての検討
- ② 館内や居室の衛生、清掃、整理の生活環境への支援不足改善の支援プログラムづくり
- ③ コミュニケーション支援の不足に対する手立ての具体化
- ④ 重度化、重複化を見据えた活動プログラムの再構築
- ⑤ 他施設への見学、学習会等での職員のスキルアップ
- ⑥ 安全な環境下での日中活動、施設入所支援（配置職員数、勤務体制、プログラムの再構築）
- ⑦ 利用者定員割れの改善

実績

- ① レクリエーション
内容＝散策・茶話会・カラオケ・健康維持・映画・外食等

年間回数=47回

平均参加者=13名（平均出席率 52%）

② 紙器加工

年間生産数=261,100セット（前年度対比 89%）

③ 工賃

総支給月数	就労時間	工賃支払総額	平均工賃月額	平均工賃時間額
合計③	合計①	合計②	②÷③	②÷①
289月	20,641時間	4,475,349円	15,486円	217円

イ. 就労継続支援B型「らくさい作業所」

概要

個々の支援計画に基づき、日中活動支援内容（就労意欲・技術向上に向けた支援、健康管理、移動支援、コミュニケーション支援、相談支援、外出支援、食事支援、余暇活動支援等、就労・生活支援プログラムの展開）を拡充し、自主性・協調性を養う支援を行った。

成果

- ① 様々な作業に従事することで技術向上・生産力アップに繋げることが出来た
- ② 朝礼当番に加えてレクレーションについても利用者主体で取り組み、自主性・協調性を養うことが出来た
- ③ 利用者の意見を取り入れながら、作業環境の改善に取り組んだ
- ④ 月1回生活支援の時間を設け、生活の質の向上に努めた

課題

- ① 定員割れの解消
- ② 生活支援の時間確保、質の向上
- ③ 利用者の自主性・協調性を養う職場づくり
- ④ 就労支援方法等の職員研修、スキルアップ
- ⑤ 適正且つ、わかりやすい工賃評価作成
- ⑥ 工賃向上に向けた目標設定と売上管理

実績

① 作業科目一覧

科目	内容
点字印刷	市民しんぶん、市会だより、部局情報誌、盲導犬情報等
封入発送作業	市民しんぶん拡大版、市民ニュースポスター、京都創生PRポスター
ミシン縫製	下請：和装用袋、袋物、袋詰 自主製品：給食袋・体操服入れ・白杖入れ・手提げ袋等
箱作業	京菓子箱：八つ橋・ようかん
数珠加工	数珠玉通し
黒豆茶	ティーパックの袋詰め作業

② 売上

科目	売上 (円)
点字	11,491,358
ミシン縫製	1,233,143
箱作業	801,675
数珠加工	196,600
黒豆茶	480,960
自販機等	353,169
合計	14,556,905

③ 工賃

総支給月数	就労時間	工賃支払総額	平均工賃月額	平均工賃時間額
合計③	合計①	合計②	②÷③	②÷①
190 月	17,140 時間	6,871,607 円	36,166 円	401 円

ウ. 施設入所支援（夜間支援）

概要

- ① 施設入所（夜間支援）における安全・安心な生活環境整備による業務体制の見直しに努めた。しかし、従来からのマンネリ化による支援の固定化と制度の研究不足が大きな立ち遅れの原因として浮上した
- ② 宿日直支援員に対する業務連絡体制及び緊急時対応に努めた。とりわけ、長期の休み直前（お盆、正月休暇等）に利用者支援の申し送りを試みた

成果

- ① 利用者緊急用カルテの整備に着手した
- ② 宿日直支援員に対する長期休暇前の申し送りに着手した
- ③ 利用者の入浴時間を部屋単位からグループ分けにし、スムーズな入浴ができるようにした
- ④ 浴室清掃の業者委託

課題

- ① 夜間支援における安心・安全な生活環境整備、危機管理対策の検討
- ② 休日及び夜間想定防災訓練の実施
- ③ 緊急用カルテの点検のルーチン化を引き継ぎの円滑化
- ④ 長期休暇をはじめ、週末の申し送り業務としての定着が課題

【各サービス内容】

ア. 健康管理

概要

- ① 利用者個々の目標やニーズ、課題に即した支援計画の実践
- ② 単独通院が困難な利用者や急病の利用者に対して、通院介助及び入院時の支援

成果

- ① 定期的な体重・血圧測定の実施、経過把握を行った
- ② 救急時や通院介助時、利用者緊急用カルテを活用した
- ③ 利用者緊急用カルテの整備・点検を行った
- ④ インフルエンザ発症時に支援員と協力し迅速な対応を行えた
- ⑤ インフルエンザ等、感染症に備え館内消毒を行った

課題

静養室の未整備

実績

①利用者の健康診断等の実施状況

期日	実施内容	対象者	人数	実施者等	実施場所
毎月1回	嘱託医健診	希望者(8・2月は全員)	204	洛西寮嘱託医	洛西寮医務室
		マラソン出場希望者			
	寮内健診	全員	653	洛西寮看護師	洛西寮医務室
4月	胃癌検診	40才以上	2	京都予防医学センター	洛西支所
	大腸癌検診	40才以上	7	京都予防医学センター	洛西支所
6月	歯科健診	希望者	4	京都府歯科医師会	洛西寮医務室
7月	基本健診	全員	37	京都工場保健会	洛西寮
4月、1月	子宮癌検診	20才以上女子	3	医療機関	洛西NT病院
11月	眼科健診	希望者	10	医療機関	洛西NT病院
4月、12月	乳癌検診	30才以上女子	4	医療機関	洛西支所

②通院件数

年度	通院件数
21年度	500
22年度	420
23年度	566
24年度	716
25年度	690

イ. 食事の提供

概要

- ① 嗜好調査結果より、利用者のニーズに合わせた献立作成に努めた
- ② 調理場の清掃、調理器具の使い分け、害虫駆除、検便等の衛生管理に努めた
- ③ 保存食の徹底（-20℃以下・2週間）
- ④ 医師の指示に従った療養食の提供と、検診結果に基づく栄養指導の実施

成果

- ① 食中毒や感染症に罹患する利用者がなく、安定した食事提供ができた
- ② 事業移行により、作業所別に時間差で食事提供が必要となったが、厨房内に配膳棚、保温電気炊飯器を導入し、食品庫内も収納量を整備したことで円滑に食事を提供することができた
- ③ 「災害時等の給食提供に関するガイドライン」（京都市）に従い、災害時備蓄食品を整備した（1日分）
- ④ 栄養ケアマネジメントを導入し、入所者の健康・栄養状態について指導・評価を行うことにより、数例の改善が見られた。
- ⑤ 昼食時に支援員による食事介助（見守り）の協力が得られたことで、食事面での課題について指導、観察が行えるようになった

課題

- ① 嗜好調査、検食簿への記入、日常的な点検活動
- ② 災害時備蓄食3日分保存が推奨されているが、2日分が未整備
- ③ 栄養ケアマネジメント導入により、健康面・栄養面において継続的指導が必要な利用者について、指導時間の確保が課題

実績

行事食の年間一覧

行事	内容
開所記念日（4/19）	赤飯、ぶりの照り焼き、三度豆の生姜和え、金時煮、木の芽和え、茶碗蒸し、漬物、いちご、オレンジ
子供の日（5/5）	まぐろづけ丼、のっぺい風煮物、赤だし、漬物、りんご
七夕（7/7）	五目ちらし寿司、南瓜とがんとどきの煮付け、吸物、スイカ
クリスマス（12/24）	米飯、ローストチキン、シーフードサラダ、ミネストローネ、パイナップル
お正月（1/1～1/3）	おせち料理（10種）、お雑煮（3種）、焼肉、ちゃんこ鍋、天ぷら（海老、南瓜）、うなぎちらし寿司、ポークピカタ等
節分（2/3）	恵方巻き、鯛の蒲焼き、小松菜の磯和え、胡瓜の梅肉和え、赤だし、節分福豆
ひなまつり（3/3）	海鮮ひなちらし、あさりと小松菜の和え物、吸物（菜の花）、いちご、パイナップル、ひなあられ

ウ. 歩行訓練

概要

利用者一人一人の要望に応じ、個々のニーズ・歩行技術に併せ実施した

- ① 白杖基本操作獲得・道路などの環境構造理解・状況把握
- ② 寮周辺店舗までのファミリアリゼーション（環境理解）
- ③ 店舗などでの実践を想定した社会適応訓練
- ④ 施設館内でのファミリアリゼーション
- ⑤ 通所利用者に対する単独通勤のための歩行チェック

成果

- ① 年間を通じて、20名の利用者が日常生活の行動範囲を拡大した。洛西寮から近隣の商店までの歩行が可能になり、単独での買い物ができるようになった者、自宅からの往復通所を確実なものとし、信号横断などの課題を克服した者、寮内でのオリエンテーションなどを通じて、寮内移動が安定した者など、自立歩行の獲得により、生活の質の向上が図られた
- ② 実習生や新人研修生に対して、視覚障害の理解と手引き歩行についての講習を行い、視覚障害に対する理解を深めるきっかけとなった

課題

利用者個々のニーズに対する十分な訓練時間の確保ができていない

実績

- ① 洛西寮周辺の店舗などへの外出の訓練 12名
- ② 自宅から洛西寮への通勤の訓練 4名
- ③ 単独歩行の基礎技術の訓練 3名
- ④ 洛西寮館内のファミリアリゼーション 1名

エ. 余暇活動支援

概要

- ① 創作・娯楽を中心に、余暇の質を高めるため、定期的に利用者の要望を聞いた
- ② 毎金曜日にレクリエーションを固定して行った
- ③ 長期休暇、土日祝の日直者による日中活動の提供を行った
- ④ 外部講師による音楽（合唱指導）を実施した

成果

- ① ちくりんではレクリエーションの曜日を固定することにより、ボランティアの協力が得られた
- ② 音楽は、外部講師の支援により、行事（夏まつり・クリスマス会等）での合唱発表の機会を設け実施することが出来た

課題

- ① 外出レクリエーション時の安定した手引き確保
- ② 皆が参加しやすいレクリエーション企画、利用者ニーズに対応した小グループの余暇活動の企画
- ③ レクリエーション参加率の引き上げと支援員のレクリエーション内容に対するスキルアップ

実績

① 日中活動支援

内容＝地域行事・茶話会・対面朗読・スポーツ行事等

利用者参加延人数＝215人

② 選択科目

科目	利用者人数	内容
健康と調理	7名	健康・栄養に関する勉強会、材料の買い物、調理実習
体操	18名	準備体操、ストレッチ、筋力トレーニング、整理体操、散策、球技等
点字	5名	点字の読み書き練習
社会	5名	テーマにそつての情報提供（新聞記事等）

オ. 買い物支援サービス

概要

希望者のみ毎月一回、ショッピングセンターと近所の店舗へ買い物支援をする。

成果

前年度との比較では、近所の買い物への申込者は増え、ショッピングセンターの買い物の申込者は減った。理由としては近所の買い物は、ちくりんになってから作業が15時までとなり申し込みしやすくなったことと、ショッピングセンターはレクレーションで買い物支援を行ったためと思われる。

課題

- ① 申込者が多数の場合は介助者不足となる
- ② 最寄りのショッピングセンターでは商品が少ないので今後は別の店舗を検討する

実績

- ① 年間延人数＝近所：70人、ショッピングセンター向日町店：20人
- ② ちくりんにおいては、平成26年2月より毎週木曜日を買物支援日と設定した

カ. ボランティア支援サービス

概要

今年度は、洛西寮ボランティア41名の登録者があり、利用者個々の課題やニーズに応じた日常生活上の利用者支援の充実を図るため様々な分野でボランティアの協力を得てきた。

成果

- ① 洛西寮の夏まつり等の行事における要員ボランティアの確保
- ② 春の行事、研修旅行、休日及び長期休暇の個別の外出時（買い物、映画鑑賞、散策等）の手引きの確保
- ③ ちくりんの余暇活動支援における手引きの確保
- ④ 選択科目における点字指導や社会での情報提供

- ⑤ 利用者とボランティアとの交流を深める新年会や自治会行事への参加（七夕会、クリスマス会）
- ⑥ 朗読ボランティアによる、毎週月曜日の「あんな話こんな話」の情報提供及び毎週土曜日の対面朗読
- ⑦ 繁忙期における作業の協力

課題

- ① ボランティア登録者減少
- ② 休日の外出支援ボランティア確保の調整に苦慮した

実績

ボランティア登録者数 41 名（平成 26 年 3 月 31 日現在）

ボランティア活動実績

活動内容	計
作業	95
朗読	598
選択科目	107
手引き	145
行事	143
合計	1,088

B. 三療事業部

ア. 盲人ホーム美鈴

概要

1. 患者数の推移

今年度は、年間患者数が 5,397 名、前年比 108.5% で前年度にあげた今年度のもっとも大きな課題をクリアすることができた

その要因として

- ① 利用者の高い勤労意欲が基本となって、接遇やコミュニケーション施術力などバランスのとれた総合的な仕事力
- ② 指名率が常に 90% を超えるベテラン利用者の高いスキル、入所初年度、2 年目利用者の着実な成長
- ③ 鍼治療の患者数は前年比 129% と大幅に増加し、新患者も前年比 112% と着実に増加している

2. 職員、利用者の推移

職業指導員の交代、施設長の専任、パート職員入れ替えと全員の総変わりではないが、それに近い印象を与えるような状況となった。

利用者は退所者、入所者それぞれ 1 名であった。

3. 利用者の技術向上のための取り組み

今年度は、美鈴利用者の状況を施設長と指導員で、総合的に評価したうえで接遇・環境整備・情報処理や清潔保持、身だしなみやコミュニケーションなどについては、相応の水準に達していると判断した。

そのうえで、施術のスキルアップに特化し、入所初年度、2年目の利用者に対し、揉み線や圧迫法・揉捏法などの、手技力、圧痛点の触知力などの基礎的なことにも目を向けながら、指導員や利用者同士で施術をチェックし、相互に評価をしあう仕組みを取り入れた。

また、朝礼で新患をはじめ患者施術で観察したことや、気付いたこと、注意を喚起すべきことなどについて積極的に報告しあうようにして患者の状態に全員の共通の理解が進むように努力した。

4. 研修支援

- ① 京都府立盲学校研究生1名の夏期実習
- ② 平成25年12月から3ヶ月間にわたって研修希望者1名を受け入れた

5. 地域イベントへの参加

- ① 洛西寮夏まつりにて無料奉仕マッサージを行い好評を得た
- ② 船岡秋のスタンダードにて有料マッサージに参加

成果

- ① 患者数の目標を達成した
- ② 利用者それぞれに差はあるが、全員が年度当初に比較して力量が高まった
- ③ 自動券売機の設置、職員用ロッカーの買い替え、空気清浄機の設置などにより業務環境が改善された

課題

- ① 将来の展望を明確にすること
- ② 利用者の就労・就業支援業務を本格的に開始すること
- ③ 前年度3%の患者数増を達成すること

実績

- ① 年間患者数=5,397件（前年比108%）
- ② 年間売上=17,408,500円（前年比109%）

イ. 就労継続支援A型「らくさい治療院」

概要

1. 開所

全国でも事業展開が少ない、はり・きゅう・マッサージを行う就労継続支援A型施設として、平成25年4月1日に開所。A型とは法人と施設利用者が雇用契約を結び、社会保険等の労働法規が適用され、施設利用者は福祉サービスを受けながら法人の従業員として働ける事業である。

住宅街にあるわかりにくい立地条件を懸念したが、前年度まで営業していた三療技術指導所の患者に移転案内のDMを送付し、開所当初から来院していただくことができ幸先の良いスタートとなった。治療院として専用設計した建物は、清潔感と落ち着いた雰囲気演出する照明やバリアフリー等で好評を得た。

2. 施設利用者数（定員10名）

時期	項目	人数
開所時	8名	8名
4月	2名入所	10名
10月	1名退所（一般企業へ）	9名
1月	1名入所	10名
2月	1名退所	9名

3. 支援計画

コンプライアンス（法令遵守）での施設の設置目的は、施設利用者のニーズ・課題に沿った個別支援計画による就労支援であり、開業や一般企業への就職を目指して個々の目標設定を明確にした。

支援計画により、施設利用者と支援側が同じ方向を向いてスキルアップすることができた。

3ヶ月ごとにモニタリングをし目標達成度を評価し、自らの振り返りとフィードバック、今後への課題や取り組みの方向性を面談し共有した。

4. 就労支援

実践経験を積んでスキルアップを目標とする就労支援事業である。患者の要望に添ったスキルを提供し、満足を得られれば次回の指名へとつながっていく。評価が明確に数字として表れる厳しい世界であり、施術スキルはもちろんのこと、傾聴・承認等を含めたコミュニケーションスキルもプロとしてレベル向上が求められる。施術や対応へのクレームもあったが、できていないことへの当たり前のご指摘であり、ありがたい指導と厳粛に受け止めながらスキルアップの大きなチャンスとした。トータルスキルアップが、開業や一般企業への就労へとつながっていくことになる。

個人のストレンクス（潜在的な力・未活用の能力）を活かした能力開発の支援方法を、個別支援計画に反映させた就労支援の形ができてきたので、今後はそれを具体化していく。

成果

- ① 支援計画で個々のニーズ・課題を明確にし、利用者と支援者で目標を共有しながらスキルアップができるようにした
- ② 支援計画に対する目標達成評価を3ヶ月毎にモニタリングした
- ③ 施術の実践経験がスキルアップへフィードバックができるよう支援した
- ④ グループワークで幅広く意見を聴くことにより、傾聴・承認能力を向上できるよう支援した
- ⑤ メンバー同士で施術することで、手技の視野を広げることができた
- ⑥ 新聞折り込み・インターネットでの広報宣伝活動を行った
- ⑦ イベントの健康教室の講師として指導員を派遣した
- ⑧ 洛西寮夏まつりにて無料奉仕マッサージを行い好評を得た。

課題

- ① 施術スキルの均等化（指名患者の均等化＝個人売上の均等化）
- ② 最低賃金の保障
- ③ らくさい治療院の周知と集客
- ④ 三療業における就労継続支援プログラムの具体化
- ⑤ 安定した経営ができる収支分析と目標設定

実績

- ① 年間患者数=5,131人（前年比<三療技術指導所>116%）
- ② 年間売上=16,517,800円（前年比<三療技術指導所>113%）
- ③ 平均賃金

総支給月数	就労時間	賃金支払総額	平均賃金月額	平均賃金時間額
合計③	合計①	合計②	②÷③	②÷①
113月	14,802時間	15,421,304円	136,472円	1,042円

C. 法人

ア. 事務局

概要

1. 内部組織体制の見直し

1 事務局、2 事業部体制

- ① 法人事務局
- ② 就労・生活支援事業部（洛西寮）
- ③ 三療事業部（盲人ホーム美鈴・らくさい治療院）

2. 新事業所の開始と指定申請

平成25年4月開始

- ① らくさい作業所（就労継続支援B型事業所）
洛西寮（生活介護・就労継続支援B型事業所・施設入所支援）
- ② らくさい治療院（就労継続支援A型事業所）

平成26年3月開始

特定相談支援事業（障害者相談支援事業所スマイルサポート）新規事業所指定申請

3. 定款等規程類の変更手続き

- ① 定款の目的変更（新事業追加）
- ② 定款の一部改正（常務理事新設）
- ③ 給与規程の一部改正（給与表等の改正）
- ④ 育児・介護休業規程の一部改正（法改正による）

4. 新会計基準について

平成24年度より新会計基準を導入して2期目

平成25年度においては、洛西寮拠点区分会計に下記のサービス区分会計が追加

- ① 就労継続支援B型事業会計（らくさい作業所）
- ② 就労継続支援A型事業会計（らくさい治療院）
- ③ 特定相談支援事業会計（スマイルサポート）※平成26年3月1日開始

5. 機関誌「楽西（らくさい）」の発行・ホームページの更新

- ① 機関誌「楽西」については年2回（7月と1月）、各事業所の状況や施設行事の報告、製品の紹介、利用者の様子等、編集委員で検討し発行した。
- ② ホームページについては、「障害者相談支援事業所スマイルサポート」事業案内、行事の案内、機関誌「楽西」、後援会の掲示等更新をした。

成果

- ① 就労系事業（A型・B型）の適正な運営
- ② 特定相談支援事業の指定認可（平成26年2月27日）
- ③ 定款目的変更による登記完了、給与規程に定める給与表等の改正
- ④ 特定相談支援事業会計ソフトの更新

課題

- ① 洛西寮の新会計基準における3つのサービス区分会計間の按分
- ② 経理規程の一部改正
- ③ 給与規程の諸手当の見直し

実績

1. 事業運営

事業(所)名	サービス事業	事業開始年月日	定員
障害者支援施設 洛西寮 ①洛西寮 ②ちくりん ③らくさい作業	施設入所支援（30名） 生活介護（25名） 就労継続支援B型（20名）	平成23年10月1日 平成23年10月1日 平成25年4月1日	45名
点字出版施設 紫野点字社	点字出版事業	昭和57年4月	
京都府中途失明者巡回生活 指導員派遣事業	更生相談事業	昭和52年10月	
盲人ホーム美鈴	地域生活支援事業	昭和57年4月	20名
らくさい治療院	就労継続支援A型	平成25年4月1日	10名
障害者相談支援事業所 スマイルサポート	特定相談支援事業	平成26年3月1日	

2. 理事会・評議員会の開催

①理事会

月	日	主な内容	出席者数
5	29	平成24年度事業報告並びに決算について他	理事6名 監事2名
7	24	事業推進3ヶ年プランの検討について	理事7名 監事2名
9	25	指定特定相談支援事業所の設置について他	理事7名 監事2名
11	27	定款の一部改正について（目的変更）他	理事8名 監事1名
2	26	育児介護休業等に関する規則の一部改正について 給与規程の一部改正について 定年退職職員再雇用規程について	理事8名 監事2名
3	26	平成26年度事業計画及び予算について 定款の一部改正について 就業規則の一部改正について 平成25年度補正予算について 新評議員の選任について	理事7名 監事1名

②評議員会

月	日	内 容	出席者数
5	25	平成 24 年度事業報告並びに決算について他	理事 3 名 評議員 13 名 監事 2 名
11	9	定款の一部改正について（目的変更）	理事 2 名 評議員 12 名
3	22	平成 26 年度事業計画及び予算について 定款の一部改正について 就業規則の一部改正について 平成 25 年度補正予算について	理事 3 名 評議員 11 名

③監査会

月	日	内 容	出席者数
5	25	平成 24 年度事業報告及び会計監査について	理事 1 名 監事 2 名

④法人運営会議

月 1 回

⑤法人事務局会議

月 1 回

3. 人事

- ① 採用 盲人ホーム美鈴指導員（1名）、らくさい治療院生活支援員（1名）
らくさい作業所工賃目標達成指導員（1名）
- ② 休職（育児休業） 洛西寮看護師（1名）

4. 法人登記事項

- ① 資産の変更登記（平成 25 年 5 月 31 日）
- ② 定款変更登記（平成 26 年 1 月 30 日）

5. 助成金申請

公用車更新のための助成金申請（京都府共同募金会）

イ. 点字出版施設「紫野点字社」

概要

京都市からの点字印刷を中心に受注した。市民しんぶん・市会だより点字版は年間契約し、毎月安定した仕事量を確保できた。その他の受注では、選挙公報やマラソン交通規制などの市民しんぶん区版の挟み込みタブロイド紙、市政情報冊子の点字版を製作した。また、点字以外では、市民しんぶん拡大版・市政ポスターの宛名印刷、封入発送業務を年間契約で受注した。京都市以外では、社会福祉協議会や視覚障害者関係団体、ボランティアグループなどからの受注であった。

大口では、社会福祉法人日本盲人福祉委員会の視覚障害者選挙情報支援プロジェクトに参加し、参議院選挙の点字公報の一部を担った。

成果

- ① 地域視覚障害者の活動を援助する点字印刷を迅速に安価に行えた
- ② 視覚障害者の不足しがちな情報を提供するための出版活動を推進した
- ③ らくさい作業所の作業を確保し、安定した工賃配分と就労意欲を向上させた
- ④ 音訳版受注に対するデジタル録音化を行った
- ⑤ 過去5年間製版枚数では最高枚数を記録した

課題

- ① 市民しんぶん点字版のタイトな製作日程への対応と効率化
- ② 市民しんぶん点字版の発行部数減少にともなう売上の減少
- ③ らくさい作業所点字印刷能力と受注への調整
- ④ 京都市への入札における競争力のある価格の検討
- ⑤ 製版機の更新
- ⑥ 後継者の育成

実績

作業内容	枚
製版	5,825
塩ビ版印刷	604,263
パソコン製版	506
パソコン印刷	8,429
点字名刺、はがき	1,659
点字シール	1,276
発送	3,840
墨字印刷	29,331
墨字入力	12

ウ．京都府中途失明者巡回生活指導員派遣事業

概要

1. 今年度の特徴

今年度の訪問相談事業は、対象者数146人・延派遣回数424回で、前年度より対象者で21人、派遣回数で117回相談支援件数が増加している。北部・南部それぞれに地道な連携作りや啓蒙活動を進めてきた結果ではあるが、このことは地域の中で視覚障害に関する相談のニーズがないとする従来の考えを否定する結果となっている。掘り起こしをすればするほど、家庭の中に埋もれている視覚障害者につながっていくというのが指導員の確かな感触として感じられ、社会参加の機会も少なく様々な情報を得にくい環境下に置かれている視覚障害者が、潜在的に相当数いることが予想される。

また、定点型相談訓練事業の活動が、指導員や本法人が様々な機関や社会資源との連携を深めるきっかけとなり、今まで情報が届きにくかった対象者と視覚障害福祉のつながりを作り始めており、訪問型相談事業との相乗効果をもたらしている。

2. 南部サテライト事業の取組

昨年度から本格実施されている定点型相談訓練事業（南部サテライト事業）は、視覚障害者が利用しやすい環境の中で、視覚障害に特化したニーズに対応するために、京都ライトハウス訪問訓練事業と共催し、京田辺、宇治、長岡京で毎月1回、向日、八幡、木津川でも不定期に会場の提供を受け実施している事業である。全会場で合計45回開催、延べ400名以上の当事者が参加している。

内容は、相談支援・視覚リハ技術支援・情報提供支援・交流のためのサロン企画等で、専門性を活かした対応ができるだけでなく、当事者間のネットワーク作りや当事者自身が役割を持ち社会参加できる機会を提供するなど、「情報障害」と言われ、社会参加が難しい視覚障害者にとって、生活の質を向上できる大変有効な障害者支援事業である。

昨年度から本格実施されているこの事業は、前年にも増して地域の視覚障害者に周知・定着が進んできており、定点を設けることにより、相談や訓練を継続的に行い社会参加の場所を確保するという事に留まらず、同じ障害を持つ者相互の連携、巡回生活相談・訓練事業の啓蒙など、様々な機能を果たしている。

3. 府内視覚相談会

京都府家庭支援総合センターと京都ライトハウス、京都視覚障害者支援センターが共催して実施している「府内視覚相談会」に相談員として参加した。その場では解決しないニーズを後日訪問して対応している。

福祉制度の周知不足を感じる中で、相談会は市町村が果たすべき役割の一旦を担っていると思われる。

内容：個別相談・ロービジョン相談・視覚リハ訓練紹介・視覚障害者用機器・盲導犬・講演等

成果

- ① 補装具・日常生活用具・各種機器の紹介、活用方法についての支援
- ② 障害年金請求申請手続きの説明と情報提供支援
- ③ 失明後の障害受容相談支援と生活訓練への連携
- ④ 福祉サービス、制度利用の情報提供と行政への連携
- ⑤ 介護保険利用者に対する制度利用の支援等、介護事業者への連携
- ⑥ 福祉事務所との連携と視覚障害福祉の啓蒙
- ⑦ 一般就労の継続や新規採用及び福祉的就労の支援
- ⑧ 南部地域拠点（サテライト）事業による総合的相談支援拠点の創設

課題

- ① 対象地域が広範囲なことに加え、視覚障害に関する相談の潜在的ニーズ掘り起こしによる相談件数の増加・相談ケースの深刻化により、配置されているスタッフでの巡回相談に限界が生じはじめている
- ② 府内6圏域に設置された地域障害者生活支援センター等との有機的な連携がとれるようなシステムづくりが必要
- ③ 対象者の重度・重複・高齢化に伴い、巡回指導員だけでなく様々な関係諸機関との連絡調整が必要になり、一人の利用者に関わる相談時間が増大する傾向にある
- ④ 本相談事業の、京都府としての位置づけ、委託金の精算単価、職員配置、巡回相談用の車購入の支援など、新たな事業展開のための課題が山積している
- ⑤ 京都府の委託事業であるところから、市町村窓口に対する本事業への周知と協力支援が必要

実績

1. 過去5年間の相談件数比較（延回数）

21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
304	352	369	307	424

2. 南部地域拠点（サテライト）活動状況

実施地域	回数	参加者数（延べ）
京田辺	12	122
長岡京	12	113
宇治	11	106
向日	1	2
木津川	1	3
八幡	1	7
散策等	4	53
創作・体操	3	16
計	45	422

3. 府内相談会実施状況

実施日	開催地	会場	時間
5月14日	城陽市	城陽市福祉センター	10:30～15:30
7月23日	京丹後市	丹後視力障害者福祉センター	11:00～15:30
9月19日	南丹市	園部総合庁舎	10:30～15:30
11月19日	福知山市	福知山市総合福祉会館	11:00～15:30
1月21日	向日市	向日市福祉会館	10:30～15:30
3月11日	木津川市	東部交流会館	10:30～15:30

エ. 特定相談支援事業「障害者相談支援事業所 スマイルサポート」

発足経過

平成24年の制度改正により、障害福祉サービスを利用するすべての人に「サービス等利用計画」の作成が必要となり、これからは提出されたサービス等利用計画を参考にしながら福祉サービス等受給者証の支給決定をすることとなる。

課題

- ① 利用者の受給者証更新時期が集中する
- ② 通所者の場合の適切な利用計画相談や緊急時の対応
- ② 相談支援専門員の他事業との兼務

実績

利用者2名のサービス等利用計画案を提出する

オ. 主催行事

1. 第28回 洛西寮夏まつり

概要

開催日時 平成25年7月6日(土) 午前11時～午後3時

会場 障害者支援施設 洛西寮、らくさい治療院

内容

- ① イベントコーナー（利用者自治会洛友会による合唱、佛教大学よさこいサークル紫踊屋、カラオケ大会、福西バンドによるバンド演奏）
- ② 模擬店（焼きそば、たこ焼き、かき氷、おつまみ、ジュース、生ビール、ポン菓子実演販売、遊び、洛友会コーナー等）
- ③ 無料マッサージ体験・鍼体験
- ④ 洛西寮自主製品販売
- ⑤ 視覚障害体験コーナー（点字の名刺作り、ビーズ通しの作業体験、箱折りの作業体験、お茶を飲む日常生活体験、音声パソコン・拡大読書器・ポータブルレコーダーの紹介）

成果

- ① 天候には恵まれたが、開催日が地域の学校行事と重なったことなどで、昨年に比べると来場者がやや少なかった
- ② イベントをはじめ、各コーナーも大いに盛り上がり、楽しい1日を過ごしてもらうことができた
- ③ 本法人が運営する新事業について、多くの方々に広く知っていただく良い機会となった

課題

- ① 当日のらくさい治療院への誘導
- ② 4階イベントと館内放送の連携
- ③ 啓蒙コーナーへの来場者の誘導
- ④ 模擬店（特にたこ焼き）への人員の配置や販売品目の分散
- ⑤ 模擬店での三角巾やエプロンなど衛生面の強化
- ⑥ 前庭や4階イベントコーナーでの飲食の場拡張
- ⑦ 家族と利用者のふれあいの場の提供
- ⑧ 洛友会以外の利用者コーナー
- ⑨ 電気を集中して同時に使わない工夫
- ⑩ ちらしの配布方法
- ⑪ 近所の方への周知の継続
- ⑫ 手引きボランティアの運営の仕方
- ⑬ 駐車場の借用

実績

来場者：約350名

協力ボランティア：52名（登録24、実習生・学生11、みやびワイズメンズクラブ17）

後援：京都新聞社会福祉事業団、京都市住宅供給公社洛西事業部、
京都府視覚障害者協会、京都市社会福祉協議会、
鉄道弘済会、読売光と愛の事業団

協力：みやびワイズメンズクラブ

2. 第28回法人研修旅行

概要

開催日時：平成25年9月19日（木）～20日（金）

行先：北陸方面

内容

1日目：月うさぎの里、ぶどう狩り

2日目：御菓子城、ちくわ作り体験、日本海さかな街

宿泊先：ゆのくに天祥

成果

- ① 89人の参加をバス3台で対応した
- ② 味覚狩り、体験、試食等、視覚障害者が楽しめる企画が好評であった
- ③ 予算内で北陸随一の温泉宿泊施設を利用できた
- ④ 宴会では事業所単位で演目を出し、利用者・職員一丸となって取り組み、大変盛り上がる事ができた

課題

- ① ボランティアの養成強化
- ② 当日の急病者の対応への体制づくり

実績

過去5年間の旅行参加人数

年度	行先	利用者	職員	ボランティア	合計
21	南信州	41人	20人	9人	70人
22	南知多	45人	24人	10人	79人
23	淡路島	50人	22人	13人	85人
24	焼津	45人	20人	16人	81人
25	北陸	49人	23人	17人	89人

3. 西京区視覚障害者支援ボランティア養成講習会

概要

開催日時：平成25年5月29日（水）・6月1日（土） 10時～16時

（オプション＝6月5日（水）・8日（土） 14時～17時）

会場：障害者支援施設 洛西寮 会議室

内容：視覚障害についての講義、弱視体験、アイマスクでの昼食、手引講習など

（オプション：点字・朗読、利用者との近所の買い物）

- ① 西京区社会福祉協議会、西京視覚障害者協会との共催で開催した結果、参加者・講習内容、外部講師及び関係ボランティアサークル等の協力支援が広く得られた
- ② 共催3者で実行委員会を組織し、企画から宣伝、当日の運営まで共同して実施することができた

成果

- ① 洛西寮でのボランティア講習会の第3回が開催できた

- ② 西京区社会福祉協議会の共催により、広範な宣伝と補助金による運営支援を受けることができた

課題

- ① 養成後の施設側の再講習及び支援技術向上に向けた学習の場づくり
- ② ボランティアコーディネーターの育成と日常の支援前後の相談・支援の体制づくり
- ③ 受講者数の減少

実績

参加者数 5名（洛西寮ボランティア登録者数3名）

カ. 共催事業

1. 第47回白杖安全デー

概要

開催日：平成25年10月6日（日）

会場：京都ライトハウス 4階 あげぼのホール

内容：テーマ「白杖見たら声かけて ～何かお手伝いしましょうか?～」
パレード（平野神社～千本北大路）と交通安全集会

参加者：230名

成果

- ① 視覚障害者による現状のメッセージ
- ② 一般府市民への「声かけ」の重要性を訴える啓蒙活動用DVD・ビラ製作

2. 第39回あい・らぶ・ふえあ（視覚障害者福祉啓発事業）

概要

開催期間：平成26年2月22日（土）～23日（日）11時～18時

会場：ゼスト御池（河原町・市役所・寺町広場）

内容：

- ① 絵画コンテスト＝小学生を対象にした絵画258枚を展示
- ② 体験コーナー＝ゲームコーナー、文具など展示、点字体験、白杖体験、弱視体験、手引き、手引かれ、ブラインド喫茶 等
- ③ 販売コーナー：関西盲導犬協会、FS トモニ、洛西寮、さわさわ
- ④ 視覚障害者ボランティア連絡会の展示コーナー
- ⑤ 催し：お箏の演奏、ライブ、研究発表、講演 等

参加者：約1,400人（2日間）

3. 第31回 視覚障害者京都マラソン大会

概要

開催日：平成26年3月2日（日）

会場：西京極総合運動公園陸上競技場及び周辺道路

参加者：9名（洛西寮）

成果

- ① 初参加者含む全員が完走した
- ② 地域のボランティアの伴奏協力が得られた

課題

- ① 練習時間・手引不足
- ② 天候不順による練習不足

実績

洛西寮利用者の順位

3km 男子全盲の部：9位・16位・17位

1km 男子弱視の部：7位・9位

1km 女子弱視の部：5位・8位

1km 男子全盲の部：8位

1km 女子全盲の部：4位

IV 各法人事業部門の報告資料編

(見出し符号はⅢ. 各部門別報告と連動します)

A. 障害者支援施設「洛西寮」

洛西寮実利用者数

月	ちくりん	らくさい作業所	施設入所
4月	23.6	13.7	28.1
5月	22.1	13.6	26.6
6月	22.6	13.5	28.2
7月	23.4	13.4	28.2
8月	20.6	11.7	25.8
9月	22.8	13.9	28.0
10月	22.7	14.1	28.4
11月	21.7	14.4	28.6
12月	20.0	13.0	25.5
1月	19.3	12.9	24.9
2月	19.7	12.9	25.8
3月	20.5	16.5	26.2
年平均	21.58	13.63	27.03

ア. 生活介護「ちくりん」

紙器加工実績

業者	納品数 (セット)	金額 (円)
北村紙器	230,000	724,500
PAX サワダ	31,100	77,175
合計	261,100	801,675

レクリエーション実績

実施日	内容	目的	参加人数
4月19日	散策:竹林公園	散策・健康維持	17名
26日	喫茶:コマダコーヒー	茶話会	13名
26日	カラオケ:あそびば	娯楽	19名
5月10日	買物:エニコ	買物支援	6名
17日	買物:エニコ	買物支援	3名
24日	パンケーキ作り	調理とティータイム	20名
31日	散策:鈴虫寺	散策・健康維持	11名
31日	散策:ラクセス	散策・健康維持	7名
6月7日	喫茶:小川珈琲本店	茶話会	9名
14日	喫茶:小川珈琲本店	茶話会	10名
21日	DVD鑑賞	映画鑑賞(座頭市)	13名
27日	ボーリング:エミナス	運動・健康維持	12名
28日	カラオケ:施設内	娯楽	7名
7月12日	買物:アルプラサ 亀岡	買物支援	9名
19日	買物:アルプラサ 亀岡	買物支援	9名
25日	ボーリング:エミナス	運動・健康維持	13名

実施日	内容	目的	参加人数
8月2日	かき氷作り	調理とティータイム	16名
9日	買物:アルプテザ 亀岡	買物支援	12名
20日	カラオケ:施設内	娯楽	11名
23日	喫茶:コマダコーヒー	茶話会	10名
30日	喫茶:コマダコーヒー	茶話会	9名
9月6日	買物:アルプテザ 亀岡	買物支援	11名
13日	宴会練習	旅行宴会練習	全員
27日	ベビーカー作り	調理とティータイム	16名
27日	カラオケ:あそびば	娯楽	4名
10月4日	散策:善峰寺	散策・健康維持	9名
11日	散策:善峰寺	散策・健康維持	9名
11月1日	外食:ファミレス ジョイフル	外食支援	7名
15日	外食:ファミレス ジョイフル	外食支援	7名
15日	DVD鑑賞	映画鑑賞(武士の家)	7名
22日	外食:ファミレス ジョイフル	外食支援	6名
29日	イモのオヤツ作り	調理とティータイム	18名
12月6日	クリスマス会:洛友会	合唱	全員
13日	カラオケ:あそびば	忘年会、娯楽	21名
20日	餅つき	調理とティータイム	22名
26日	カラオケ:施設内	娯楽	11名
27日	喫茶:コマダコーヒー	茶話会	12名
平成26年			
1月10日	初詣:松尾大社	散策	15名
17日	みたらし団子作り	調理とティータイム	16名
24日	カラオケ:施設内	娯楽	18名
31日	鬼の面作り	創作	14名
2月7日	喫茶:コマダコーヒー	茶話会	9名
7日	カラオケ:施設内	娯楽	5名
13日	チョコ作り	調理	14名
14日	チョコ作り	調理	14名
21日	ひな人形作り	創作	13名
28日	喫茶:コマダコーヒー	茶話会	8名
28日	DVD鑑賞	映画鑑賞(青い山脈)	6名
3月7日	ペン立て作り	創作	12名
14日	クッキー作り	調理とティータイム	16名
18日	カラオケ:施設内	娯楽	14名
28日	ティータイム	ティータイムと総括	全員

イ. 就労継続支援B型「らくさい作業所」

点字印刷実績

作業項目	枚数
製版	5,825枚
塩ビ版印刷	604,263枚
点字名刺、はがき	1,659枚
点字シール	1,276枚
墨字印刷	29,331枚
墨字入力	12枚

発送業務

作業項目	送付件数
市民しんぶん拡大版	全市版 4,064 件・区版 4,025 件
市民ニュースポスター	箱有り 4,759 件・箱無し 1,152 件
京都創生ポスター	箱有り 1,656 件・箱無し 580 件・その他 801 件

ミシン縫製販売枚数 年間売上状況

製品	合計
給食袋	3
給食セット	183
靴入れ	50
体操服入れ	232
ビーズ製品	190
手提げ袋	55
ティッシュケース	270
ナップザック	184
腕カバー	56
巾着袋	33
入浴袋	84
買い物袋	11
白杖入れ	192
その他	396
合計	1,939

エ. 施設サービス

1. 健康管理

健診結果とその後の状況

月日	健診	対象	受検者	異常なし	所見あり	指示	精検後異常なし	精検後異常あり	経過観察
4/10	胃癌検診	40歳以上	2	2	0	0	0	0	0
4/10	大腸癌検診	40歳以上	7	6	1	1	1	0	0
4/30	子宮癌検診	20歳以上女性	2	2	0	0	0	0	0
6/5	歯科健診	希望者	4	0	4	2	0	0	2
6/5	基本健診	全員	37	7	30	0	0	0	30
9/2～ 10/29	耳鼻科検診	希望者	24	17	7	1	0	0	6
11/25	眼科健診	希望者	10	7	3	0	0	0	3
12/13	乳癌検診	20歳以上女性	4	0	0	0	0	0	0
1/7～ 28	耳鼻科検診	希望者	17	15	2	0	0	0	2
1/9	子宮癌検診	20歳以上女性	1	1	0	0	0	0	0

予防接種

月日	予防接種	対象	接種人数	実施場所
11/19	インフルエンザ予防接種	希望者	24	洛西寮医務室

利用者の学習会の状況

月日	学習会	対象	参加者	講師	実施場所
6/5	歯磨き指導	希望者	4	歯科衛生士	洛西寮会議室

C. 法人

イ. 点字出版施設「紫野点字社」

過去5年間の年間実績比較 (単位、枚) (※ 発送：部)

年度	製版	印刷機 印刷	亜鉛版 印刷	PC 製版	PC 印刷	点字 刷、はき	点字 シール	発送	墨字 印刷	墨字 入力	用紙 加工
21	5,505	763,371	-	635	10,374	290	3,481	2,137	38,384	26	-
22	5,794	669,636	100,144	651	8,264	1,250	2,485	2,997	30,630	35	107,159
23	5,717	603,922	84,185	697	13,200	946	2,317	5,568	33,294	38	87,219
24	5,766	581,574	106,802	506	11,425	2,289	2,366	2,824	49,011	20	96,087
25	5,825	604,263		506	8,429	1,659	1,276	3,840	29,331	12	

<参考資料>

平成26年3月31日現在

1. 理事・監事・評議員

理事	評議員	監事
9名	19名	2名

2. 職員構成

(1) 法人本部

法人事務局		
職名	職種別職員数	備考
常務理事	1名	兼務
事務局長	1名	
事務局次長	1名	
合計	3名	

(2) 障害者支援施設 洛西寮

洛西寮 (施設入所支援)		
職名	職種別職員数	備考
管理者	1名	兼務
サービス管理責任者	1名	兼務
栄養士	1名	
調理員	5名	常勤換算 (3.6名)
生活支援員	4名	宿直・日直職員 常勤換算 (1.8名)
合計	12名	

ちくりん（生活介護）		
職 名	職 種 別 職 員 数	備 考
管理者	1 名	兼務
サービス管理責任者	1 名	兼務
生活支援員	4 名	常勤換算（3.2名）、内1名兼務
看護師	1 名	
嘱託医	（1名）	
合 計	7 名（1名）	

らくさい作業所（就労継続支援B型）		
職 名	職 種 別 職 員 数	備 考
管理者	1 名	兼務
サービス管理責任者	1 名	兼務
職業指導員	3 名	常勤換算（1.8名）
生活支援員	1 名	
工賃目標達成指導員	1 名	
合 計	7 名	

(3) 点字出版施設 紫野点字社

紫野点字社		
職 名	職 種 別 職 員 数	備 考
施設長	1 名	
指導員	1 名	兼務
合 計	2 名	

(4) 京都府中途失明者巡回生活指導員派遣事業

京都府中途失明者巡回生活指導員派遣事業		
職 名	職 種 別 職 員 数	備 考
生活指導員	1 名	兼務
生活指導員	1 名	常勤換算（0.6名）
合 計	2 名	

(5) 盲人ホーム 美鈴

盲人ホーム美鈴		
職 名	職 種 別 職 員 数	備 考
施設長	1 名	
生活指導員	1 名	
事務員	1 名	常勤換算（0.4名）
合 計	3 名	

(6) らくさい治療院

らくさい治療院（就労継続支援A型）		
職 名	職 種 別 職 員 数	備 考
施設長	1 名	兼務
サービス管理責任者	（1名）	兼務
職業指導員	1 名	
生活指導員	1 名	常勤換算（0.6名）
合 計	3 名	

(7) 特定相談支援事業

障害者相談支援事業所 スマイルサポート		
職 名	職 種 別 職 員 数	備 考
所長	1 名	兼務
相談支援専門員	1 名	常勤換算 (0.2名)、兼務
合 計	2 名	